

木の精キロリのひみつのいのり

■プログラムの概要

| | | | |
|--------|--|------|---------|
| ねらい | ・イチョウの葉を使った生きものづくりを楽しみ、イチョウの木に親しみを持つ ・1本の木から、たくさんの葉や実がとれることで仲間を増やそうとしていることに気付く | | |
| キーワード | 身近な自然 | | |
| 対象 | 幼児～小学2年 | | |
| 時間 | 45分（単独）～60分（他の遊びと組み合わせて） | 実施場所 | 園庭・公園など |
| 使用するもの | イチョウの葉、両面テープ、ハサミ、画用紙、紙芝居敷物・ブルーシートなど（野外で行う場合） | | |
| 全体の流れ | <ol style="list-style-type: none">1. あいさつ2. ウォーミングアップ 増やし鬼「キロリのおにごっこ」3. イチョウの葉っぱ集め 落葉の季節でないなら省略し、事前に集めておいたものを使用する。4. 紙芝居「木の精キロリのひみつのいのり」5. イチョウの葉の創作活動6. まとめ・シェアリング | | |

■進め方

| 時間 | 学習内容 | 指導上の留意点 |
|-----|---|--|
| 5分 | <p><あいさつ> 今日の活動の流れを説明</p> | <p>楽しい自己紹介を心掛ける</p> |
| 20分 | <p><ウォーミングアップ> キロリのおにごっこ オニは逃げる側が木にタッチしている間は、捕まえられない。替りにオニがキロリ、キロリ、キロリという“呪文”を唱えると、木から離れて逃げなくてはいけない遊び。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帽子の色で、オニグループと逃げるグループに分ける ・オニに捕まった子は、帽子を裏返してオニになる | <ul style="list-style-type: none"> ・全体の人数により、オニの数を増減する。全員がオニを経験する。 ・呪文「キロリキロリキロリ」を練習唱和する。軽く汗をかく程度に行う。 ・おにごっこは子どもが意欲的で3回程やりたがる。プログラムの実施可能時間に合わせて行いたい。 ※3回オニを変えて活動した場合、時間は20分ほど。 |
| 10分 | <p><葉っぱ集め> イチョウの葉をみんなで集める。</p> <p><紙芝居> 紙芝居「木の精キロリのひみつのいのり」を読み聞かせる。</p> <p><創作活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みんなも、生きものを作ってイチョウの木を助けよう。」とよびかける。 ・画用紙にイチョウの葉（あらかじめ両面テープを貼っておく）でいろいろな生き物の形をつくる。 ・オイルパステルやマジックペンで描き足してもよい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・季節がずれていたら、事前に集めておいたものを使う。 ・集めた葉っぱに大人が両面テープを付けておく。 ・イチョウの木の前で読み聞かせ。 ・お手本の作品を見せる。シートの上で、各人自分の作りたいものを考えて作る。 ・作りたいものが考えつかない子どもには、いっしょに考えて提案してみたりする。 |
| 10分 | <p><まとめ・シェアリング></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を掲げて見せ合い、感想を出し合う。 ・イチョウの木の祈りをみんなで言う。 「キロリ、キロリ、キロリ、ドドンガドーン」 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの作品のよいところを伝え合う。 ・呪文については、子どもの実態に応じて、指導者が工夫する。 例「木のいのち、木のいのち、木のいのち、ドドンガドーン」「おおきくなーれ」 |

■使用するもの

| 物 品 名 | 数 量 | 備 考 |
|---------------|------|--|
| イチョウの葉 | 数百枚～ | 20枚くらい×人数分 |
| 両面テープ | | 全てのイチョウの葉の裏に切って貼っておく。テープは1～2個持参して、イチョウの葉が不足した時、使用する。 |
| 画用紙 | 人数分 | B4 色はフィールドで決める。あるいはあらかじめ色を決めて、名前を書いておく。 |
| ハサミ | 2～3本 | イチョウの葉の茎が長い場合、適宜切る。 |
| オイルパステル・マジック | 人数分 | 目や鼻程度を付け足すこともある。子どもの状況に合わせて使用する。 |
| 紙芝居 | | 「木の精キロリのひみつのいのり」 |
| 敷物 ブルーシート等 | | ブルーシート大等、20～40人位が座れて作業するスペースがあること。 |

■実施にあたって留意する点

- ・天候により室内でも実施可能
- ・動と静の活動を組み合わせる。おにごっこと読み聞かせ、造形遊びなど工夫すると楽しめる。
- ・プログラム「木ってどんな顔しているのかな」との組み合わせも可能。